

にしだ昭二 県政通信



2012年初春号

『いしかわ教育の日』厚生文教委員長として
議長代理祝辞をする西田昭二県議



H23.11.1 石川県文教会館にて



自民党県連青年局のベトナム視察団長として
三谷産業現地工場を訪問(H23.11)

謹賀新年

年初めも積雪も少なく例年になく穏やかな日が続いていますが、如何お過ごしでしょうか。こんにちは！県議会議員の西田昭二です。昨年は、皆様のお蔭をもちまして、無事二期目を迎えることが出来ました。私にとって今年は市議・県議として丸10年、この間に通算5回の審判があり、また、瓦先生の秘書としての経験も併せると政治に携わって20年目の節目の年となり、振り返ればあっという間の歳月であります。今年の干支は辰であり、いわれの1つとして将来が明るくあらゆるものが奮い辰(?)、縁起のよい年の象徴と言われており、私自身も現状に甘んじることなく、あらためて自らを奮い立たせながら、今後も微力ながら努力を重ね、七尾市、石川県の振興と発展のため頑張る所存ありますので、本年もよろしくお願いします。

初心を忘れることなく！ 9&12月議会・一般質問より

県議会初当選から19回の県議会定例会が行われ、これまで初回からずっと一般質問や委員会での質問を続けています。12月議会でも登壇しました。細かな質問もありましたが『地元七尾を大切に』との思いであり、県議会議員として県との『つなぎ役』に徹する思いは、今も変わりません。以下は、9月議会及び12月議会での私の質問と執行部の答弁の趣旨です。

【藤原環境部長答弁】ポータルサイトについては、世界農業遺産に認定された能登の里山里海を広く国内外に情報発信するための総合的な情報発信局と位置づけ認定された意義や価値、地域資源の由来やその魅力を総合的に集約し四季折々の農作業や祭礼等を旬の情報を積極的に提供していく。ロゴマークについては能登の里山里海の象徴として統一感のある普及や宣伝活動を展開していくことで周知効果を高め、次世代につなぐ意識の向上や連帯感の醸成につなげていきたい。

9月議会では、世界農業遺産ポータルサイト・ロゴマークに関する質問を



「能登の里山里海」のロゴマーク
世界農業遺産活用実行委員会資料掲載

～にしだ昭二事務所～

〒926-0173 七尾市石崎町ソ部5

TEL & FAX 0767-62-2525

MAIL hatibe34@hotmail.com

質問と答弁と

ジンベイザメの愛称と交流人口拡大について【平成23年9月議会にて】

《質問趣旨》のとじま水族館の『ジンベイザメ館青の世界』一周年を向かえ、来場者数も期待されるところではあるが、親しみを込めてジンベイザメに愛称をつけてはどうか聞く。また、ファミリー層に対し旅行会社との連携を図りながら商品開発を行ってはどうかと思うが考えを聞く。

「蟹由観光交流局長答弁」水族館を核としたファミリー層向けの誘客については、昨年度からファミリー向けの施設紹介やモデルコースの特集をしたガイドブック初めて作成するとともにホームページも開設した。県内や近県を中心に積極的に情報発信してきたが、今後新たに星空観察や農家民宿などの体験型施設や温泉などを盛り込んだ滞在型のモデルコースを加える等の内容の充実を図るとともに旅行会社に対しては、ファミリー向けの宿泊旅行など新たな商品づくりを積極的に働きかけたい。

《酒井参事答弁》水族館全体として魅力アップを図り、誘客につなげるため新たな展示魚類の導入、ふれあい体験の取り組み、ジンベイザメのほうでナポレオンフィッシュの展示もしたいと考えている。また、議員の指摘のようにジンベイザメの愛称募集の実施、新たな企画情報の発信し、話題性を高め、来館への動議づけにつなげていきたい。



ジンベエザメ「サザベエ」の近くでパフォーマンスを披露する二木さん 二七尾市ののどしま臨海公園水族館

23.10.17 北國新聞

のとじま水族館の
 ジンベエザメ
 のとじま臨海公園水
 族館（七尾市）で昨年
 8月から公開されて
 いる雄のジンベエザ
 メの愛称が16日までに
 「サザベエ」に決まっ
 た。同日、
 同館で愛
 称命名式
 が行われ、
 命名者
 には選ば
 れた白山市徳光町の会
 社員中村美佳さん（27）
 に記念品が贈られた。
 愛称募集には全国から
 1万756通695種
 類の応募があった。うち
 11通が「サザベエ」
 での応募で、抽選で中
 村さんが命名者に決ま
 った。中村さんは、ジ
 ンベエザメが捕獲され
 た定置網がある七尾市
 佐々波町の「ササ」と
 ジンベエの「ベエ」を
 組み合わせた。中村さ
 んは「今まで以上に愛
 着がわきました」と話
 し、サザベエへの餌や
 りを体験
 した。

熊木川豪雨災害について 【平成23年9月議会にて】

《質問趣旨》七尾市の飲料水の確保のため河内ダム建設計画があったが、県では手取川からの県水を充てることにして治水対策にはダム建設より河川改修の方がコスト的に有利だとして建設計画は中止になったときの様々な経緯があった。今回の氾濫の原因は、のと鉄道の鉄道橋部分が狭いことや県道橋中島橋のけた高が低いことが考えられ、用地買収が済んでいるとも聞いており、昨今の公共事業削減の中ではあるが、県民の安全安心を確保するためにも事業促進に向け今後の整備計画について聞く。

《鶴井土木部長答弁》熊木川の改修については、河口からのと鉄道橋間1.2kmの改修は終えており残る上流の市街地の約2.4kmの改修については、大規模な橋梁の架け替え用地買収や家屋の移転に多くの時間と費用がかかる状況に加え、市街地の浸水被害が多く発生している状況であり早期に効果が発現できる緊急対策を講じることとし、H21年度に特に護岸の低い箇所の河川工事を実施している。これにより本年7月の豪雨では浸水を遅らせることが出来たが、今回の補正予算で市街地での浸水被害があった区間の全ての護岸のかさ上げ工事を完成させ、堆積土砂の除去や河川の掘削を行うこととしている。今後とも更なる治水安全度の向上に向け整備促進を図っていきたい。



23.7.5 北國新聞

その他、以下の質問をいたしております。

【平成23年9月議会にて】

《節電対策》 県庁のこの夏の節電対策の取組みと成果について 《世界農業遺産》について

《能登半島地震復興基金》について 《県産材の安定供給並びに新用途開発》について

【平成23年12月議会にて】

《幸せ度ランキング》について 《七尾線の活性化》について 《集落営農組織づくり》について

七尾港の今後の整備について【平成23年12月議会にて】

《質問要旨》七尾港は、「日本海側拠点港」の選定から外れ、拠点化形成促進港と位置づけられたが、原木の取扱の推移次第で拠点港への昇格する道もあると聞いており、積極的な取り組みを推進することが重要である。県として、拠点化形成促進港「七尾港」をどのように位置づけ、また、ハード、ソフトの両面からどのように支援していくのか、スケジュールも含め、見解を聞く。

《知事答弁》七尾港は、能登島を防波堤として冬でも波静かな日本海側屈指の天然の良港である。と同時に能登地域の産業振興、県土の発展を支える重要な社会基盤である。また、北陸のエネルギーや木材の輸入拠点港としてさらには観光レクリエーションの交流拠点としての地域経済の活性化のため、まさに中心的な役割を担っている。原木については背後の工場においての大量消費をする実需があることに加え、平成24年度を目途完成の大田大水深岸壁の水深十一メートル化が実現すると大型貨物船の入港が可能になるほか平成26年の能越自動車道七尾開通予定もあり、背後圏が拡大する十分なポテンシャルを持っていると考えている。県として今後とも大田大水深岸壁の早期の十三メートル化の要請をしていくと同時に港湾関係者との連携を図りながらひとつ積極的に七尾港の振興に取り組んで参りたい。

観光振興について 【平成23年12月議会にて】

《質問要旨》被災地との交流支援事業は緊急対策事業ということであるが、石川の交流人口拡大の呼び水のなる事業を一年で終了させるのは惜しいと思うが、知事の考えを聞く。

《知事答弁》被災地との交流支援事業は被災された地域の方々の元気を取り戻すと同時に将来にわたる交流の拡大として設立。事業により被災地の団体との交流を深まり、来県された皆様から石川県が大好きになったとの声も届き受け入れ先の市町や学校等から将来に向けた足がかりが出来たと聞いている。これは、復興支援と云う意味もあり交流経費の全額を受容れる市町観光事業者と分担して支援していることから現行制度の継続することが適切かどうかを含め十分検討する必要があると考えている。ただ、これをきっかけに様々な交流が深まることを期待している。



モンテレージャズフェスティバルにて
《県観光交流局 資料掲載》

部活動の振興について【平成23年12月議会にて】

《質問要旨》子どもの数の減や教員の高齢化により部活動が停滞していると思うが部活動の活性化のために、元気で体力があり、生徒とともに汗を流し指導できる若手の教員の配置を積極的に進めいく考えはないか聞く。



インターハイ現地激励会
《県高校体育連盟 資料掲載》

《竹中教育長答弁》部活動は、授業だけでは得られない社会性の育成や精神面での成長に期待でき、学校教育の重要な役割を担っていると考えている。新学習指導要綱に部活動は学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意することとされている。教員にとっても部活動を通じ子どもたちの気持ちを理解することや自身の人間性の幅を広げること等の有意義なものとなっている。教員経験の少ない若手教員は、生徒とともに汗を流しながら指導力を高めていった例もあり、教員配置については、部活動だけに重点を置くことは難しいが、今後とも各学校や地域の実情を踏まえ、若手教員の配置など適正な人事に努めてまいりたいと考えている。

商業科設置を検討

七尾東雲高で県教委方針

竹中博康教育長は、開校後7年余が経過した七尾東雲高について、地域の実情などを考慮し、将来的に商業科の設置を検討している意向を示した。西田氏が能登地区での商業科の復活を求めた。

七尾東雲高は、県立高校の第1次高校再編整備計画に基づき、2004年度に七尾商、七尾工、七尾農の3校が統合して開校した。現在は中島島の演劇コースを加え、テクニカル工学科、デジタル工学科、演劇科、総合学科がある。

県教委によると、県内の商業系公立高は、

23.9.16 北國新聞

被災地交流支援継続は

西田昭二氏

〈被災地との交流支援事業〉交流人口増の呼び水になっている。谷本知事 交流経費 チームが定期的なサポートを受け入れ、外部専門家の観光事業者と分担し、家のフォローアップ指

〈被災地との交流支援事業〉交流人口増の呼び水になっている。谷本知事 交流経費 チームが定期的なサポートを受け入れ、外部専門家の観光事業者と分担し、家のフォローアップ指

(自民)

〈里山創成ファンド〉



〈就農者確保〉農業人材育成事業を県単独で継続すべきだ。佐藤農林水産部長

知事 事業継続が適切か検討

23.12.7 北國新聞

23.12.7 北陸中日新聞

記者席

法政大学院の幸せ度調査で、全国三位となった石川。評価基準の社会経済統計指標四十項目のうち、西田昭二氏

(自民)は改善のため、あえて低かった項目を尋ねた。三国栄県民文化局長は「悩みがあるが誰にも相談できない人の比率」の項目で四十五

位と遅れている現状を報告。しかし、すかさず「悩みがある人の比率では(良い方から)九位だった」と「優等生ぶり」を強調した。

さらに「本県では悩みを抱える人が比較的少ない結果も記載されている」。それについて多くの県民には悩みがないというところ? 議場から失笑が漏れた。



県産材の安定供給図れ

西田昭二氏

(自民)

〈県産材〉安定供給への取り組み問う。

谷本知事 間伐材生産量は10年度5万7千立方メートルで10年前の6倍になった。年間の県産材供給量を13万立方メートルの成果を確固たるもの



水野商工労働部長 今後とも節電対策を継続する企業がある一方、自家発電装置の燃料コスト増加や従業員

にするため、国と延長について協議する。〈節電〉企業経営へとする企業もあると聞いている。

知事 目標達成へ低コスト化

23.9.16 北國新聞

穴水直通列車 来年度も継続

小森卓郎企画振興部長は9月に実施したJR金沢駅との鉄道穴水駅を結ぶ直通列車について「七尾線の活性化に大変意義があった。来年度の継続実施に向けJRやのと鉄

道、地元市町と相談し検討を進めたい」と述べた。西田氏の質問に対する答弁。

西田氏は七尾線の利便性向上のため、ラッピング列車の運行や、列

23.12.7 北國新聞

西田県議は、県議会野球部会に所属。全国都道府県議会議員野球大会に出場。背番号『44』本人は、前列右より1番目。

守備は、センターで打撃に貢献?

《場所:愛媛県松山市坊ちゃんスタジアム》

平成23年8月下旬開催